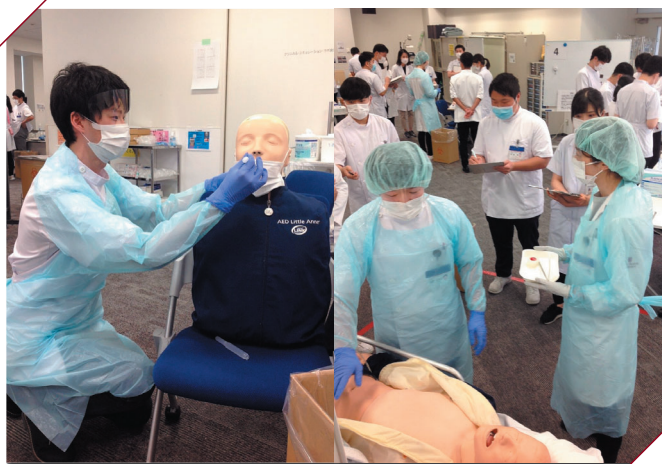


東京医科大学

[TOKYO MEDICAL UNIVERSITY]

これからの医療人に 求められる、高度な 実践力と人間性を 多角的に養う大学



臨床実習に「感染症実践コース」を導入(医学科)

コロナ禍の影響もあり、医師、看護師などの医療人が社会において果たす役割が今まで以上にクローズアップされている。東京医科大学は、高度な実践力、患者に寄り添う人間力の養成を通して人材育成の面から医療界に貢献し続けてきた。その教育の特色はどこにあるのだろうか。学長と看護学科長、さらに学生2人に話を聞いた。

取材・文／伊藤敬太郎 撮影／坂本宏志(林 由起子学長)、竹田宗司(阿部幸恵学科長)

創立105年。歴史と伝統を 誇る医療系単科大学

1916年(大正5年)、前身である東京医学講習所が設立されて以来、2021年に創立105周年を迎えた東京医科大学。その歴史と伝統に裏打ちされた医学教育により、数多くの医療人を輩出し、日本の医療に長く貢献してきた。

では、東京医科大学では、どのような医療人の養成を目指しているのだろうか。林 由起子学長は次のように語る。

「本学のミッションは“患者とともに歩む医療人を育てる”です。医療の世界ではテクノロジーの進化によっていろいろなことが変わっていきます。そんななかで医療人にとってより重要になるのは高い倫理観であり、人と人とのつながりを大切にすること。人間性です。テクノロジーへの科学的興味・関心は必要なことですが、それらはすべて患者さんのためであることを忘れてはいけません」

そんな東京医科大学の教育コンセプトを示したのが**図1**。前述のミッションを

実現するための柱が、自ら学び、考え、自らの責任で決断し、行動することを意味する「自主自学」と、法令や倫理規範を遵守し、優しさや思いやりをもって社会に貢献することを意味する「正義・友愛・奉仕」の2つの精神だ。

1年次から早期臨床体験を行い 段階的に臨床能力を高める

こうしたコンセプトに基づいて同大学では具体的にどのような教育が行われているのだろうか。

まず、同大学の大きな特徴と言えるのが、高い臨床能力・実践力の養成を実現するカリキュラム・教育環境だ。

医学科では、1年次から臨床実習がスタート。1、2年次の早期臨床体験実習で現場における各プロフェッショナルの仕事や役割を体系的に理解し、3年次以降のより実践的な実習へとつなげていく。また、実習先となる3つの附属病院にはそれぞれに特色がある。

「西新宿の東京医科大学病院では最新医療に触れることができる一方、茨城



林 由起子学長

医療センターでは地域医療について実践的に学べます。また、八王子医療センターは救急医療や移植医療の拠点。学生は本院での実習のほか希望に応じて茨城や八王子で多様な医療現場を経験することができます」(林学長)

加えて、臨床実習への準備であるシミュレーション教育が充実していることもポイントのひとつ。東京医科大学病院には学生も利用できるシミュレーター(人のバイタルサインを再現する高性能マネキンなど)が揃うシミュレーションセンターがあり、看護学科には学内にシミュレータが整備されている。看護学シミュレーション教育の第一人者である阿部幸恵看護学科長はこう語る。

「大切なのは、事前に十分な知識を学



高度分娩シミュレータを使ったトレーニングの様子(看護学科)

んでおくことや自ら学ぶ姿勢を養っておくこと。それがあってこそシミュレーション教育が生きるのです。シミュレーションの段階では、ミスや見落としがあればそのつど修正し、振り返ることができます。常に動いている現場ではそれは難しいですから。シミュレーション教育でしっかり準備しておけば現場で戸惑うことも少なくなり、臨地実習で大きく成長することができます」

また、医学科ではコロナ禍の状況を受けて、6年次の臨床実習に必須科目として「感染症実践コース」を導入。全診療科の医師がチューターとして参加し、学生は主体的に考え、議論をしながら場面に応じて感染症に対応できる力を養う。

このほか、救急・災害医学分野では学生も参加してVR教材を開発。救命救急の臨床実習で活用が始まっている。

「人間学」の授業を通して 高い倫理観や人間性を養う

続けて、医療人としての高い倫理観や人間性、コミュニケーション力の醸成のための取組を見ていこう。



看護学科
阿部幸恵学科長

軸のひとつが1～5年次に履修する医学科の「人間学」という統合講義だ。

「〈自己と他者、社会のなかでの医療、医療倫理〉の3つのテーマを柱とし、少人数のグループワークで議論を重ねる授業です。学生は議論や思索で得られた自分の考えをポートフォリオにまとめ、常に振り返ることができます。このような人間教育を5年間かけて、継続的に重ねていくことで、医療人に必要な人間性をしっかりと養っていきます」(林学長)

もちろん看護学科においても倫理観や人間性の醸成は重要なテーマだ。

「看護師にとって大切なのは患者さんやクライアント（広く医療サービスの対象者）の気持ちや立場を理解すること。ですから、生命倫理や看護倫理、心理学、社会学といった人や社会を理解する科目を早い年次から学び、こうした科目と臨地実習を組み合わせ、"病気"ではなく"人"からアプローチする姿勢を養います」(阿部学科長)

また、チーム医療、多職種連携が進んでいる医療現場の流れを受け、学部・学科を横断した教育にも力を入れている。

「医学科と看護学科併設の強みを活かし、学科の枠を超えて共に議論し、学ぶことも重視しています。ここに姉妹校である東京薬科大学薬学部の学生も加わり、学生の段階から他職種への理解を深め、チーム医療について実感をもって

学ぶ機会も設けています。頭が柔らかい学生のうちにこのような経験を重ねることで、チーム医療に必要なコミュニケーション力が養われていきます」(林学長)

2022年度からは工学院大学も交え医薬工の合同授業も始まるという。

「自主自学」の精神で学び、 卒業後も成長できる力を養う

一連の教育で一貫しているのは「自主自学」の精神だ。アクティブ・ラーニングを取り入れた授業では、学生は日々、医療の課題、人の本質について自ら深く考え、仲間と議論を重ねていく。また、医学科では1年生の段階から希望する学生は随時研究室に所属し、自分がやりたい研究に取り組むことが可能。学外の学会に積極的に参加する学生も多いという。また、看護学科では、先輩に教えることを通して自分自身が成長できるチューター制度も導入されているなど、東京医科大学では「自主自学」を実践する環境が整っており、そのための支援も充実している。

「コロナ禍で浮き彫りになったように、医師や看護師は大きな責任とやりがいがある仕事です。そこで求められるのは正解のないなかで自ら考え、決断し、行動する力。大切なのは卒業したあと、どれだけ自ら学び、成長していけるかです。そういう意欲のある学生にぜひ入学していただきたいですね」(林学長)

「自主自学」の精神に基づき主体的に学ぶ学生に聞く

いくらカリキュラムや設備が充実していても、学生に主体的に学ぶ力がなければ、これからの医療を支える人材は育たない。東京医科大学では学生はどのようなマインドでどのように学んでいるのか。「自主自学」の精神を体現する学生2人に話を聞いた。

医学科 >> 4年生

独自の研究が高く評価され、学会で受賞！

与えられた知識を鵜呑みにせず常に疑問をもつことが大切

2年次から人体構造学分野の研究室に所属。以来、研究活動に取り組み、令和3年の3月、第126回日本解剖学会総会・全国学術集会で自ら研究した「横行結腸間膜内における血管走行経路に関する肉眼解剖学的研究」を発表。令和2年度肉眼解剖学トランプルアワード(献体協会賞)を受賞した。

「もともと消化器には興味がありましたが、2年前期での解剖実習では広範囲を学ぶため、ある一部分を詳細に学ぶということには時間の都合上、難しいものがありました。そこで、より詳細に実習では触れなかった範囲を学びたいと思い、研究室に飛び込みました」

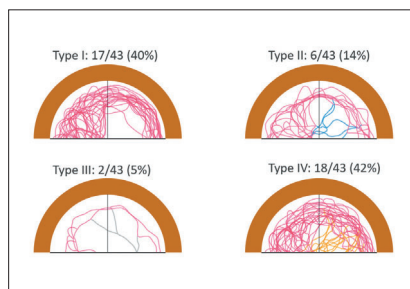
研究室で学ぶなかで、大腸(結腸)の一部

分の横行結腸という臓器に分布する血管の走行経路、つまり横行結腸と血管の位置関係がまだ明らかにされていないことを知り、これを研究テーマにすることを決め、3年次から本格的な研究にとりかかった。

「横行結腸は形態における個人差が大きいことに加え、立体的に複雑な構造なので画像検査では動脈の走行経路を推測することが難しく、医師の経験的な知識によって対応せざるを得ませんでした。しかし、今回の研究で献体を直接観察し、数十もの献体のデータを集めたことによって、初めて動脈の走行経路の可視化とパターン化を可能にすることができたのです」

研究に大切なのは与えられた

知識を鵜呑みにしないこと。また、やりたいことを自由にやれる東京医科大学の環境、研究室の先生や先輩方のサポートにも感謝しているという。



血管の走行経路をわかりやすく分類した研究発表資料

看護学科 >> 4年生

後輩の指導を通して自分自身も成長できた

3年次、4年次にチューター制度に参加

看護学科には先輩が後輩を指導するチューター制度が設けられている。2年次、3年次の臨地実習前に基本的な看護技術などを1学年上の先輩が指導する講習は、指導を受ける後輩だけでなく、教える側の先輩にとっても貴重な成長の機会。保健師コースで学ぶこの学生もチューターを務めた一人だ。

「基礎的な看護技術については1年生のときに授業で学びますが、時間が経つと忘れてしまうことも多く、事前講習はとても大切です。私自身、後輩としてチューターの先輩から指導を受けて大変力になったので、自分自身もやってみたいと思っていました。もちろん授業で先生から学ぶことが基本にあるので

すが、現場に出るまでのちょっとした不安などは先輩のほうが相談しやすい面がありますから。私は3年次には、主に看護記録の付け方や現場での時間の使い方に関する指導や相談を担当。臨地実習ではやるのがたくさんあるので、効率的に行動するコツなどを具体的に伝えました」

チューターとして後輩を指導するなかで、自分自身、コミュニケーションについても学ぶことが多かったという。その力は将来の仕事にも生きてくるものだ。

「卒業後は保健師として地域の予防医療に取り組みたいと考えていますが、既に病気の方とまだ病気がでない方とは伝え方も変わってきます。それぞれ相手の立場に

立って適切なコミュニケーションができるよう、後輩への指導、実習などを通して、これからも人間力やコミュニケーション力を幅広く磨いていきたいです」



2020年度オンラインチューター指導時の様子